

(短歌)

柴

舟...四三

をりにふれて

四四一五一

題いろく

彙報

部長更迭

新入贊助員、新入會員

五二

第二十六回文科學術談話會記事

五三

第五回會計報告

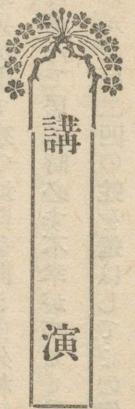
五四

交詢

母校たより

五四

文科學術談話會々誌 第六號



◎詩情畫趣 (新ラオコーン問題)

本校教授 桓内松三

今日日本會にて一場のお話をする機會を與へられたのは私の光榮とする所である。題目だけではいかにも風流さうだがそれは自分の柄にない事で例の如く理屈詰めの話で豫想に反するかも知れぬ。話の目的は現代藝術の混亂及びその結果として人生の方面にも誤れる思潮を生じたる現象に就いてハーバート大學助教授バビット氏が極めて明快なる評論を下して居る「新ラオコーン」といふ論文の梗概をお話して見たいと思ふのである。

新ラオコーンといふに就いては先づ「ラオコーン」に就いて一言する必要がある。「ラオコーン」とはレツシング (一七二八一一七八二) の文學的評論である。

レツシングに關しては茲に履歴などを委しく言ふ必要はないが只その人物性格に就いて一言する必要がある。氏は極めて博學で且つ銳利明快な批評眼をそなへた學者である。或人は氏を評してルーテルの様に獨逸が產んだ大丈夫らしい人物の一人であるといつた。氏は極めて確實に總ての現象に對して論理的に批評しつくさずしては止まぬ人である。氏の學問や事業につきては或は企て及ぶことが出来るかも知れぬが總てを明確に判断せねば止まぬ點は他に何人も及ばぬ處と思ふ。其の著ラオコーンの名は希臘傳説に基つけるトロイ戦争の話の中に現はれてをる。此の戦争は長い間續いたがなか／＼トロイを征服する事が出來ぬ。時に將軍の一人ウリセスは忽ち一策を案出して木馬を陣中に殘してそのまま兵を引き上げて退くやうに見せかけた。するとトロイの兵は敵軍がほんたうに歸國するものと喜んだ。そうして敵陣に行つてみると其處にこの木馬があつたトロイの兵はこれを祭にでも使用したものと別に怪しみもせずに城中に持ち歸つたすると夜になつて木馬の中から思ひがけなく軍兵が出て来て城門を開き内外相呼應して終にトロイ城を陥れた。これより先に城中の兵や市民達の喜んで居る時必ず不幸が來ると豫言した僧があつたがこの豫言は神の誠めを破つたことなのでミネルバは二匹の蛇を遣はしてこの僧を絞め殺させやうとしたといふ昔話がある。此の僧が二匹の蛇に絞め殺さるゝ様を表はしたのがラオコーンの像である。而してレツシングは彼の詩と畫との限界を論する論文にこの像の名を用ゐたのである。ラオコーン像は裸体の僧を二匹の蛇が

兩方より絞めて居るところである。此の像に表はれた藝術的表情はラオコーンが口を開いて居る其の口のあき方をレツシングが解釋して惱み或は苦しみの心を嘆息の狀を以て現したもの。だといつた。なほレツシングは希臘の英雄崇拜の時代に後の人やうに涙を流すやうな貌を造る道理はない、それで只運命だとあきらめて嘆息を發する口の形を現したに止まると評した。然るに詩人バージルハ此の同一題目を詠するに心の苦痛や失望の瞬間に増して來る刹那々々の變化を生々した言葉でかき表した、そして其の詩の終りには天を仰いで怖ろしい叫び聲を發せしめて居る。かくの如く同一の題目で一方は口をひらきたる形で惱みを示し一方は瞬間々々に増加する苦痛を示し最後に恐ろしき聲を上げしめて居る、此の點が詩と造形美術との分岐點である。一方は空間的に其の瞬間の情を表はさんとした、これが畫と詩との根本的差別である。即ち空間的と時間的との差である。レツシングは當時代の誤つた擬古主義を打破して眞の意義の古代文藝を興さうとしたので前の文藝復興期に於ける誤れる擬古主義を嚴密に批評して新擬古主義を唱導せむとしたのである。

こゝに新ラオコーンといふのはレツシングの擬古主義を評論して藝術の混亂を判別したやうに現代の藝術につきてラオコーン式の明確なる解決を下さむと欲する目的を以て草せられたる論文に題したる新造語で「新」といふのはレツシングのラオコーンに對していふのである。

此の論文は小冊子であるが極めて含蓄的批判的の論文であつて大体二の部分から成立つて居る。先づ初にレツシングのラオコーンの起るまでの藝術に古典的の誤りがあつてラオコーンが出たまでを論じて居る。十六世紀の初頃から伊太利にフューマニスト一派が起つて古典復興を圖つた結果形式にとらはれた藝術論が興りこれに基づいた作物も表れた。その結果として自然古典文學研究が興り又藝術も現ばれたが多く形式に囚はれて精神を失つた摸倣的のものであつた。その傾向は次第に増して最後には唯古典古文の形骸を残すのみとなつた。

それからもう一つ十七八世紀頃から古物採集が興つて無暗に古い物を集めだした。古くさへあればつまらぬ物でも何でも集める、此の風潮によつて遂に古代美術史研究の曙光を認むるに至つたが斯様にすべてが形式的復古的になつて古き文學藝術が興ると共に一方にはまた古典文學と藝術との間に混亂が起つた。無聲の詩有聲の畫といふやうな混亂した定義が起つて來た。而して此れは一つの動機に歸着する。即ち模倣性によるので何でも古い時代に倣うて其の型をまねそれに似たものを造り出さむとする努力である。其の爲に形式を重く見る其の形式は古き形式である。かくて古い形式の方面のみを重んじて形にとらはれたのが十八世紀の文學藝術の特點であつた。これに對してレツシングが齊整シンメトリー 正衡の如き立派な形式を廣く知らしめやうと努めた。此の説は學説としても亦實際に於いても勢力があつたけれども實は形式的摸倣主義に他ならぬのである。形式によりて暗示

される想像の豁い分野に就いては逸して居た。然るに斯様に移り變つて十九世紀に至つては其の形式の方面が次第に減びて他の一方の暗示的表規の方面が著しく發達して來た。これが十九世紀頃より現今に至る文學藝術の中心問題と發展して來たのである。十八世紀迄の形式主義から脱して生々したものと表はす様になつて來る。又一般的の書き方でなくして各々の特性を表はす様になつた昔のはまるで雲をつかむ様であつたが今は繪畫的に明確に其の物の眼に映るところを表す様になつた。要するに表現の鮮かなる物を示すといふのである。形式は時代と共に消滅して表現が増して來る此に表現の側よりなる幾多の藝術が生じた。その形式主義に對する根本の反動の要點は形式的知力的なるに反して感情的の反動が起つたことである。人爲的の理屈でのみ刻むやうな文藝は面白くないので専ら感情に訴へんとしたのである。

次に此の十九世紀以來の思潮の湧出に關してはルッソーの主義學説を詳論して他に及ぼして居る。即ち何時も行儀よくして立派な座敷の中に畏まつて居るのでなく場所を擇ぶならば寧ろ野原とか牧場とかがよい。人物を寫すならば寧ろ稚兒の様な無邪氣な牧者か農夫かを撰びたいといふやうな思想が藝術に及んで居る。これが獨逸の近世文藝の曙光を發する颶風時代に現はれて來る。英文學の中たゞへばウォーブウースの如き文學は胸中の壓へきれぬ感情があふれたもので人爲を加へてはならぬ自發的の物であると云ふ風でやるのがロマンチック文學の要點である。又同じ風が繪畫

では特に風景畫に現はれて居る、從來の風景畫は主に宗教畫の背景とかまたこれに附加へた遠見の景色であつたが漸々自然に接することが動機になつて天然を喜ぶ風が増すに至つた。それと共に起つたのが風景畫の研究であつて此れは大いに注目すべき現象なのである。この起源に就いては實際生活の刺戟といふ理由をも含める人もある。これは都市生活が發達して從來の如く自由に天然に接する機會を失ひ景色を樂む事が困難になつた結果遂に風景畫によつてこれを味ふに至つたのであるといふのである。風景畫の起る順序をいへば、これまで風景畫の色彩がいつもブラウンの畫である。十六七世紀の宗教畫ではこれを畫く場所は何時も室内である。故に室内的光線を受けた黒ずんだ色で支配されて居る。然るに此處に先づオランダに風景畫が起つて來たその原因は様々であるがオランダの天然の景色は極めて平凡で乾燥無味の所である。人々は何等かの法によりて天然風景を味はんとした。斯る動機が集まつて事實として風景畫が興つてこれが一般に廣まるに至つた。其中にはレンブラント・ロイスデル等の有名な畫家があるが中でもロイスデルの作品は日本畫の山水畫とよく似て居る。一体に憂鬱^{ムランコリー}の畫である。從來の風景畫は自然に遠いものであつたが和蘭派の風景畫は自然の直寫である。これが一般的の風景畫に影響を及ぼして室内でなく戸外で天然の風景を寫し始めるやうになつた。コンステール・ターナーはこの風を漸次擴張して戸外で物を寫す風になり天然の研究が始めて試みられるやうに至つた。恰も十九世紀の始め頃から科學が盛んに起つたので

當時の青年畫家はこの科學的知識によつて天然の現象を觀察した。自然の眞の景色と趣きとを表はさうとして一新境を示した。ターナーやルソー、コロー等は此の風に従つて伊太利で勉強した。伊太利殊に北部伊太利は空氣が透明でオランダよりも物の色と形が一層鮮明に見える。そこで和蘭よりは優れた精しい自然描寫法が此等の人々の間に於て始められた。ターナーが勉強を終つて故國に歸つてから同一の精神を以て故國の風景の眞相を描かんとした。今迄の和蘭派の描いた風景畫とは違つて雲や雨や霧や靄や朝の微かな光や夕暮の空に現はれる鮮やかな雲の色や水中の色々の倒影や水に映つて居る空の雲までも描かんとして自然の描寫が頓に發達した。これが傳つて佛國に來た近代の印象派の本となつた。ファンタンブローの森には多くの畫家が住んでゐた。彼は英國風の畫法で熱心にこの森のくはしき描寫を試みんとした。その派の主なる人はコローである。コローはこの森にあるウイロー樹を好んで描いた。その理由はこの木の枝がしなやかでおだやかな感を與へるので好んだものと見える。ウイローをもととして四季の變化や朝と晝との光線の變り工合や晝と夜との森の感や風を含んだ木の葉のひるがへりや木の葉を洩れて來る光線の森の下草に吸はる有様やあらゆる精しい研究はかくしてとげられた。實に天然の景色や色や光だけではなく空氣溫度をも表することにも意を用ひた。なほこれに配する人物は神話的人物の或は躍り或は歌へるものと以てした。もう一つ序にいふこの派で有名なるものはミレーである。前に云つた自然描寫に精密なり

しは勿論農夫を描くのには特に意を注いだ。從來の畫は人物といへば高位にある人、立派な裝をせ
る人、而して美しい座敷に座つてゐる人を良い畫題とした。ミレーは戸外の人を描いた。賤民の勞働
を寫した。滑稽の材料とされた農夫は人生の面影を寫すに眞に價値あるものと認められた。これら
の畫題の中で代表的なのは「祈禱」の繪である。カトリックの風習として夕方の鐘を合圖に人々は
皆持物をおいて跪づいて熱心なる祈禱を捧げるその森嚴なる態度敬虔なる容姿はこの畫によりて十
分に表はされてゐる。今一つは「穂拾ひ」の畫である。穂を拾つて居るその指先にも全身にあふれ
て居る勞働の尊さが感ぜらるるといふ。かくてかういふ畫風が發達して漸次寫實的印象的になつた。
形式主義に對する感情主義の反動の結果である。かくして文學繪畫に新現象を生じた。同時に時の
科學的精神に伴ひ印象主義の一派が起つた。なほ進んで自然主義が起つた。而してどこまでも精細
に明確に天然を寫さんとするに至りその例としてこの精神を現はす評論の一を言へば、例へばラス
キンの例をとるとこの人は自然の現象に對して精しい觀察をして居る。たゞへば雲でも木でもその
特色を明確に研究した。水についてもラスキンのいふには水をかくのに先づ第一に自分の立場を明
確にせねばならぬ。何時頃の光であつて如何なるものが寫つてゐるか。そこの水底の岩の色はどんな
であるか。これらが水に影した時それらの渾和した色や光はどうであるかを看取せねばならぬとい
ふやうなのであつた。全然空想でなくて實際的である。當時の藝術文學にはかういふ精神が表はれ
てゐる。こもかくも大体かういふやうに變つて來た。これまでの話の中には私の考で説明を附け加へ
たが、本論に立ち歸つていふと十八紀世から十九紀世の後半にかけて明瞭な表現鮮かな暗示を與ふ
ることがアートの特色となつて「靜」のアートでなく「動」のアートになつて來た。又線でなく
て色になつて來たし色には勿論光を含む。一の事を捕へてそれを鮮かに描くことになつて來た。結構
を練るよりも印象の深きものを取つて描くのである。これには光琳・廣重・北齋等の作品の影響があ
るとも論せられて居る。それによつて十九世紀の歐州の藝術が暗示的省筆的になつた。かくなつて
十九世紀の終りになるに従つてエキスピレーシヨンが加はつた。その結果文學では一瞬間は表はれ
たことを材料とし表現的に誇張した技巧印ち「言葉の繪」と稱して事件人物をかく事が起つた。又
音樂は音を聞くばかりでなく其の音によつて或は海の景色靜かな月夜の感などを聯想させることに
つとめた。此例として面白い話がある。ワグネルが佛蘭西で演奏了つて後に音樂と色とが何か關係が
あるのかと問うた。ワグネルは少し怒つた。然しそれは眞面目な質問だといふことが分つたのでそれ
は只暑かつたため手近の上衣をとりかへたのだと答へた。之によつて音と色との間に關係ある如
く思はれたといふことがわかる。十九世紀末には特にこの力は増した。他の例によれば畫の方では
色を以て音を連想させるといふ無法の事を始めて來た。かくの如く暗示的表現的といふ風潮から藝

術は混亂して來た。此れに對してバビットか新ラオコーンの斧鉗を振つたのである。

これは一見科學的觀察の如く見えるが眞の科學的精密ではない。また技巧に於ても感覺の混亂した人が色と音とを混淆する病理的現象と同一で眞のアートの精神でない。實は感情的偽科學の描寫でありまた間違つた官能のアートである。十九世紀廿世紀に起つた新らしい文藝は何れの點も女らしくして男らしい點の表れがない。感情的病的の藝術である。かういふ現象は今後も續くであらう獨藝術のみならず教育も同様である。昔の如く厳しく躊躇する事をせぬ教育論が現はれるだらう。宗教からも哲學からも森嚴な考究的の分子は去つて實際的の調子が増すであらう。併し之はいつまで續くべきものか。自分は豫言はしないが今後必ずかういふ風潮に反勵的の時代が現れるだらう。藝術に於ては知を避けねばならぬこといふまでもないが藝術の製作の順序は智的であつてセンチメタルではよろしくない。男性的であらねばならぬ。この考が増して來れず獨り現代の混亂した藝術を救ふのみならず實際生活をも救ふことが出来るだらう。といふのがバビットの新ラオコーンの大要である。バビットはかくの如くレツシングと同じく混亂した現代藝術に對して痛快な批評を試みた。藝術と生活との兩方に向つて兩斷の力を下した。この論文は一九一〇の作であるが今猶生きてゐる問題であると思ふ。この豫言は後來必ず實現されべきものであると思ふ。

翻つて我邦の藝術界を顧るに以上述べたところの十八世紀から廿世紀にかけて起つた歐洲藝術界

の變動を僅に廿余年の間にやつてのけた。而して自分はこの現象を強ち歐洲藝術の直譯でなく自然に變つた國民思潮の變革に基いて居ると解釋して居る。明治の初年は社會制度に關する問題に沒頭して居て精神界の問題には漸く二十二三年前後からふれてきた。先づ文藝の方では十八世紀に行はれた新クラシックの運動がその頃に始つて居る。古書は盛んに翻刻され古典の研究は頻りに起つて作物としては全く擬古主義の全盛時代であつた。新体詩といつてもその技巧は擬古的のものである。この頃からも舊派と新派といふ語は盛んに用ゐられ舊は無條件に棄てられ、新といへばどんなものでも價値あり、生命ある如く思はれて、後まで長く累をなして居る。次いで因襲打破の運動は三十二年頃から三十七八年にかけて起つて居る。このロマンシック時代には文法は無視され、口語の文が追ひく試みられ、熟語は古いものとして退けられ、他の方面にこの運動の勢を逞しくした。西歐の十九世紀以來の現象が現れて居る。この時代の作家は天文地理等の自然科學より心理倫理論等の精神科學の素養ある新時代の教育を受けた人が表れて文學の方にも繪畫の方にも新面目を開いて居る。調子は全然一變して居る。たゞへば風景畫に於ても、支那風の山を積み重ね、水が流れて居るといふ、型にはまつたゆき方はどうぬ。一つの筆一筋の水でもその色を表しその光を感じめんと努めて居る、これらの水彩畫油繪の手法は、自然日本繪に影響して來た、それによりて文學にも新敘景法が表はれ、科學的精密を以て描寫された人物描寫もこのゆき方で心理解剖の風が

起り同時に強度の顯微鏡的調子が表れて來た。

又はと共に美的の風も加はつてきた。この浪漫主義はだんだんナチュラリズムに移り行き遂に藝術混亂の時になつた。今の月々の雑誌日々の單行本に載せられてある小説・詩・劇等は皆センチメタルなものである。然るに新らしい藝術を以て誇るのは間違である。華やかな色や光やリズム等の感覺的のものにチャームされてゐるのである。能く頭を働かせて見ると國語の洗練はされて居らぬ。繪畫に於ても努力して自然の眞相を描かんとはせず早くも模様に逃がれんとしてゐる。光を書くといふ名の下に色のコントラストによつて胡麻かさうとしてゐる。或は線によつて動搖の感覺を表し或は一種の線の描法を以てリズムの錯覚を生せしむる様な工夫に陥らんとして居る。

音樂の事はよく知らないがブラックチースしてゐるもののが大抵西洋のものであるので同一風潮であると思ふ。實に今日の藝術界は混亂してゐる。真剣で自然を觀察してその結果をそれぞれ特有の技巧的約束に依つて描破せんとする努力は衰へて居るかと思ふ。今日の日本にも冷かな頭をもつた批評家が出てラオコーン式の斧鉄を揮はなくてはならないかと思ふ。

偉大なる明治時代が終つた時に早くも外國人の中には日本人の精力は衰へてしまつたといつた。然しその觀察は勿論誤つてゐる。時代は轉回して發表の時代から集約の時代に入つて居る。明治時代は徳川三百年間太平の時代に集積した精力を發揮したが今はこれを集中する緊約する時代に入つて居

る。自分は大正の御代の始めに何か精神的主觀的の反動が生じて來るだらうと思つたが大正第一の運動は内外種々の原因から制度整理といふ文明史家のいふ社會的現象を以て始まつてきた。これまた緊約集中の時代精神の一面であるが精神界に於ても前代末の放漫な思想に對して反動が起つて来るだらうかと思はれる。さういふ精神か藝術界に現はれたらもつと智的分子の勝つた洗練された技巧の藝術があらはれて來ないであらうか。ともかく今迄の藝術では満足せぬ風潮が來るであらう。また實際生活との關係から考へてもかういふ藝術に醉つて居る様では仕方がない。今や教育界に於ても著しく藝術と國民教育との關係に就ての注意が増加して居るが眞に優秀なる民族的勢力は表面の改革のみではなく是非とも國民精神に肉迫する藝術の洗練發達に待たねばならぬ。今後民族的競争場裡に於て眞にハンデー・キヤップを戴き得る國氏はセンチメンタル等の病的藝術に醉つて居るやうな民族ではなく底力のある明晰なる判断力のある國民でなければならぬ。

諸君、我々はこの愉快なる且つ光榮ある國民陶冶の使命を帶びて居るのである。今日茲にこの新ラオコーンの話をしたのは別に深く感ずるどころがあるからである。切に諸君の覺悟を促したい。

(完)